

## 新 ALT アレクサンダー・ルイス・ディアズさんを紹介します 大学時代にオペラで光源氏も演じた日本通

佐藤洋子(広報部会)

アレクサンダー・ルイス・ディアズ (Alexander Luis Diaz) さんは、2022年8月に、姉妹都市タスカルーサから習志野市に、ALTとして派遣されてきました。12月現在、市立第五中学校で教壇に立っています。

ディアズさんは日本、そして習志野市と浅からぬ因縁をもっています。

第一に、実はただの日本語ではなく、関西弁のかなりの使い手らしいということ。大学3年生の時、関西外語大に7カ月留学。たこ焼きや浪花カルチャーに親しみ、神社仏閣巡りなどに没頭したそうで、「一番好きな所は(京都の)伏見稻荷。赤い鳥居がズラッと並んでいるのは壮観ですね」と、流ちょうな日本語で語ります。

第二に、弟が過去にタスカルーサからの高校生訪問団員として習志野市に来日。大感激の土産話を聞き、「その頃から習志野市に好印象を持ちました」と笑います。

第三に、アメリカの大学時代には『源氏物語』のオペラを創作。作詞作曲はもとより、テノール歌手として主役の光源氏を演じたそうで、八面六臂の活躍から日本への傾倒ぶりがうかがえます。

大学では日本語と音楽を専攻。卒業後、ピアノや歌など音楽の先生として10年くらいキャリアを積みましたが、ここ数年はコロナの流行のため、オンラインでの指導が続き、教える側として困難になっているそうです。「生徒、学生の顔がマスクや画面越しでよく

見えないから、顔もよく覚えられないし、教えるのも難しい。歌もそうですが、今、英語を教えていても、お互いに口元が(マスクで)見えないので、難しい点がありますね」と言います。「でも、五中の学生は元気がよく、よく頑張っていますよ」。そう微笑みます。

趣味の一つである編み物は6年ほど前から始め、作ったブランケットはすでに100枚くらいになる、といますからハンパではありません。「日本に来てからも、もう5枚くらい作りました。テレビを見る時など、何もしてないのはもったいない。いつも何か作りたいんです(笑)」。

今後の抱負は、「コミュニティ作り。友達だけでなく、いろいろな人々と関係を作っていきたいですね」。その言葉通り、10月の習志野きらっとでは早速ハッピーを着て参加、大いに祭りを盛り上げてくれました。



きらっとサンバチームに参加したディアズさん(前列中央)